

平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 クレオ

コード番号 9698 URL <http://www.creo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 阿南 祐治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務管理室長

(氏名) 雨田 高志

TEL 03-6866-0331

四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家、一般投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	5,379	13.5	46	△46.9	73	△28.7	40	△83.8
28年3月期第2四半期	4,739	△12.6	87	△4.4	103	8.1	251	677.5

(注)包括利益 29年3月期第2四半期 43百万円 (—%) 28年3月期第2四半期 244百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	4.70	—
28年3月期第2四半期	29.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	7,138	5,078	70.4
28年3月期	7,091	5,165	72.2

(参考)自己資本 29年3月期第2四半期 5,029百万円 28年3月期 5,118百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年 3月期の連結業績予想(平成28年 4月 1日～平成29年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	11,500	11.6	370	6.9	380	3.1	260	△37.1

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社コト、除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期2Q	9,237,319 株	28年3月期	9,237,319 株
29年3月期2Q	586,950 株	28年3月期	582,908 株
29年3月期2Q	8,650,880 株	28年3月期2Q	8,655,252 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、平成28年11月11日(金)にアナリスト、機関投資家、一般投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明会資料の概要については、開催後当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、所得、個人消費などは回復傾向にあるものの、当社グループの主な顧客となる企業部門のマインドや設備投資は横ばいで推移しており、全般的に景気は踊り場の状況にあります。しかしながら当社が属するICTサービス市場においては、業界、企業規模等による差はあるものの、業務の省力化、コスト削減の実現、新たな成長のための基盤づくりを行うことを目的として、全般的にIT投資が積極的に行われていると認識しております。

このような状況の中、当社グループは市場成長の機会を確実に捉え、より高度化する顧客ニーズに対応できる体制を構築することを企図して、平成29年4月に事業・組織再編を実施すべく、新たな成長を実現するためのグループのあり方について検討を進めております。

当第2四半期連結累計期間における、当社グループの状況は、売上高は前期第4四半期より連結子会社となった株式会社アダムコミュニケーション、第1四半期より連結子会社となったイアス株式会社の売上高が加算されたことなどにより、前年同期比で6億40百万円増加しました。

営業利益は、クレオマーケティング事業、クレオソリューション事業が減益となったほか、平成28年12月に本店および子会社を移転することに伴い、現在利用している事務所の原状回復などに係る資産除去債務を当第2四半期に繰り上げて、19百万円を費用として計上したことなどにより、前年同期比で40百万円の減少となりました。経常利益は営業利益の減少に伴い前年同期比で29百万円減少し、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期第1四半期の筆まめ事業の株式売却益の反動減により、前年同期比で2億10百万円の減少となりました。

(ご参考：筆まめ事業株式売却益：2億4百万円)

以上の結果、売上高53億79百万円（前期比13.5%増）、営業利益46百万円（前期比46.9%減）、経常利益73百万円（前期比28.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益40百万円（前期比83.8%減）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

・クレオマーケティング事業（主たる事業：基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供）

売上高については、人事給与、会計を中心とした「ZeeM」シリーズ製品に関連するサービス売上が減少したことなどにより、前年同期比で78百万円減少いたしました。サービス売上は「ZeeM」の導入支援、アドオン開発などのサービス提供によるものです。

営業利益については、上記売上高減少の影響により、前年同期比で25百万円減少いたしました。

その結果、売上高は11億8百万円（前期比6.6%減）、営業損失43百万円（前期は営業損失17百万円）となりました。

・クレオソリューション事業（主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発）

売上高については、第1四半期より連結子会社となったイアス株式会社の売上高が加算されたことなどにより、前年同期比で1億83百万円増加いたしました。

営業利益については、イアス株式会社の「のれん」償却などにより、前年同期比で9百万円減少いたしました。

その結果、売上高は11億75百万円（前期比18.5%増）、営業利益13百万円（前期比41.3%減）となりました。

※ 同事業の前年同期実績値は、クレオソリューション事業から分割した、ココト事業に該当する部門の業績を差し引いて記載しております。

・ココト事業（主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発、運用サポート、システム運用に伴う事務作業）

同事業は平成28年4月、株式会社クレオソリューションの事業の一部を分割、新設した株式会社ココトが中心となっております。

売上高については、既存顧客からの受注の増加などにより前年同期比で1億28百万円増加いたしました。

営業利益については、上記売上高の増加などにより、前年同期比で7百万円増加いたしました。

その結果、売上高は8億38百万円（前期比18.1%増）、営業利益45百万円（前期比19.5%増）となりました。

※ 同事業の前年同期実績値は、クレオソリューション事業から分割した、ココト事業に該当する部門の業績を参考値として記載しているものです。

・クレオネットワークス事業（主たる事業：ICT基盤サービスプラットフォームの提供とBPMツールの開発・販売）

売上高については、クラウド基盤サービス「N-CLOUD」のストック収益の増加などにより、前年同期比で29百万円増加いたしました。

営業利益については、上記売上高の増加などにより、前年同期比で6百万円増加いたしました。

その結果、売上高は2億89百万円(前期比11.3%増)、営業利益33百万円(前期比22.6%増)となりました。

・クリエイトラボ事業 (主たる事業：ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス)

売上高については、平成28年1月に株式会社アダムコミュニケーションを連結子会社としたことなどにより、前年同期比で3億78百万円増加いたしました。

営業利益については、上記売上高の増加などにより、前年同期比で11百万円の増加となりました。

その結果、売上高は19億68百万円(前期比23.8%増)、営業利益76百万円(前期比16.8%増)となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、2億55百万円の減少となりました。

これは主として売掛金の減少によるものです。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、3億3百万円の増加となりました。

これは主として子会社の取得に伴うのれんの増加及び本店移転に伴う差入保証金の増加によるものです。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、90百万円の増加となりました。

これは主として前受収益の増加によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、87百万円の増加となりました。

これは主として配当金の支払いによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、営業活動で獲得した資金を、無形固定資産の取得、配当金の支払等で使用した結果、前連結会計年度末と比較して19百万円減少し、当第2四半期連結会計期間末には35億80百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は4億42百万円（前年同四半期は4億1百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益73百万円、売上債権の減少5億35百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3億28百万円（前年同四半期は2億4百万円の支出）となりました。主な要因は、無形固定資産の取得による支出2億21百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1億33百万円（前年同四半期は45百万円の支出）となりました。主な要因は、配当金の支払額1億29百万円によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、平成28年5月13日付け「平成28年3月期決算短信」において公表いたしました数値より変更はございません。

連結業績予想には、リスクや不確実性を含んでおり、そのための様々な要因の変更により、大きく異なる結果になる可能性があります。通期の連結会計期間においては、以下のようなリスクがあります。

当社グループの多くの事業セグメントは、売上高および利益が第2四半期および第4四半期に特に集中する傾向があります。两会計期間における売上および利益計上が計画通りに推移しない場合、業績予想と実績が大きく乖離する可能性があります。

個別の事業セグメントに固有のリスクについては下記の通りです。

クレオマーケティング事業については、新規顧客の獲得の遅れが生じた場合、あるいは通期の連結会計期間に予定しているライセンス販売等の検収が来期にずれ込む場合には、予想と実績が大きく乖離する可能性があります。

クレオソリューション事業については、事業の性質上通期の連結会計期間末に検収が集中しており、検収の進捗により売上計上時期が来期にずれ込む可能性があります。また、今後の開発状況によっては不採算プロジェクトが顕在化する可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションが会社分割により分社化し新たに設立した株式会社ココトを、連結の範囲に含めております。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第1四半期連結会計期間において当社はイアス株式会社の全株式を取得し、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(会計上の見積りの変更)

当社の連結子会社である株式会社クリエイトラボは、その子会社である株式会社セールスゲイトに対し事業所の一部を賃貸しておりましたが、株式会社セールスゲイトの移転のため平成28年9月にこの契約を終了しました。

この移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

当該物件の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務については、支出発生までの見込期間を短縮し、将来にわたり変更しております。

この変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ、7百万円減少しております。

当社は平成28年12月に本店移転及び子会社移転を予定しており、この移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。

不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務については、支出発生までの見込期間を短縮し、将来にわたり変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ19百万円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,599	3,580
受取手形及び売掛金	2,176	1,755
商品及び製品	19	4
仕掛品	167	293
その他	193	273
貸倒引当金	—	△7
流動資産合計	6,155	5,899
固定資産		
有形固定資産	186	178
無形固定資産		
のれん	26	151
その他	408	497
無形固定資産合計	435	649
投資その他の資産		
その他	313	432
貸倒引当金	△0	△21
投資その他の資産合計	313	410
固定資産合計	935	1,239
資産合計	7,091	7,138
負債の部		
流動負債		
買掛金	462	437
未払法人税等	80	47
賞与引当金	429	433
資産除去債務	—	42
その他	812	912
流動負債合計	1,784	1,874
固定負債		
未払役員退職慰労金	26	26
退職給付に係る負債	32	105
資産除去債務	50	27
その他	31	26
固定負債合計	141	186
負債合計	1,925	2,060
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	743	743
利益剰余金	1,384	1,295
自己株式	△180	△180
株主資本合計	5,096	5,007
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21	22
その他の包括利益累計額合計	21	22
非支配株主持分	47	48
純資産合計	5,165	5,078
負債純資産合計	7,091	7,138

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	4,739	5,379
売上原価	3,837	4,349
売上総利益	901	1,030
販売費及び一般管理費	814	983
営業利益	87	46
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
助成金収入	11	15
その他	2	11
営業外収益合計	16	29
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	0	1
営業外費用合計	0	1
経常利益	103	73
特別利益		
子会社株式売却益	204	—
その他	0	—
特別利益合計	204	—
特別損失		
その他	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	307	73
法人税、住民税及び事業税	53	29
法人税等調整額	1	0
法人税等合計	54	29
四半期純利益	253	43
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	251	40

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	253	43
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	△0
その他の包括利益合計	△8	△0
四半期包括利益	244	43
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	242	40
非支配株主に係る四半期包括利益	2	3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	307	73
減価償却費	103	130
のれん償却額	—	19
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△23	4
受取利息及び受取配当金	△1	△1
支払利息	0	0
有形固定資産除却損	0	0
子会社株式売却損益(△は益)	△204	—
売上債権の増減額(△は増加)	498	535
たな卸資産の増減額(△は増加)	△77	△108
仕入債務の増減額(△は減少)	△56	△40
未払金の増減額(△は減少)	△49	△145
その他	△44	17
小計	452	485
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△52	△44
営業活動によるキャッシュ・フロー	401	442
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△11	△15
無形固定資産の取得による支出	△160	△221
差入保証金の差入による支出	△0	△79
差入保証金の回収による収入	0	0
貸付けによる支出	△30	△50
保険積立金の払戻による収入	—	5
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△3	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	38
その他	△0	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△204	△328
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△43	△129
非支配株主への配当金の支払額	△1	△1
リース債務の返済による支出	—	△1
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△45	△133
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	150	△19
現金及び現金同等物の期首残高	3,553	3,599
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,704	3,580

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	ココト事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,186	992	710	259	1,589	4,738
セグメント間の内部 売上高又は振替高	21	54	—	45	246	368
計	1,208	1,046	710	305	1,835	5,106
セグメント利益又は損 失(△)	△17	22	38	27	65	136

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	136
セグメント間取引消去	△128
全社費用及び利益(注)	78
四半期連結損益計算書の営業利益	87

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	ココト事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	1,108	1,175	838	289	1,968	5,379
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	48	—	40	112	205
計	1,111	1,224	838	329	2,080	5,585
セグメント利益又は損 失(△)	△43	13	45	33	76	126

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	126
セグメント間取引消去	△128
全社費用及び利益(注)	48
四半期連結損益計算書の営業利益	46

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社クレオソリューションが会社分割により分社化し新たに株式会社ココトを設立しました。これに伴い報告セグメントを検討した結果、従来の報告セグメントにココト事業を追加しました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分及び配賦方法により作成したものを記載しております。